

高知県立文化施設事業評価委員会（令和4年度事業）の委員意見概要

施設名	文学館	開催日	令和5年8月8日（火曜日）
項	目	内 容	
・企画展について		・来館者増は親子連れの効果だと感じる。今まで手に取ることがなかったが、文学館ニュースが良いなと思った。HPでも見られるようになっているとのことで、来館して手に取ると更に良いと感じた。 ・柴田ケイコ展は幅広い年代が見に来ており、触れるコーナーもあり、素晴らしい展示であった。将来的にそういった企画をミニコーナーとするなど、常設を工夫をしていくのも一つかと思う。 ・上林暁など、なかなか入場者数が稼げないかと思う。是非、オーテピアと連携を。地元の作家である寺田寅彦など、集客は稼げなくとも、文学館で展示や発信を行うことは非常に大事。 ・駐車場がない状況でよく入場者数を稼いでいる。上林暁展などは難しいかと思うが、柴田ケイコ展など子ども向けのメニューで入場者数が増えている。子どもの時に文学館に行った経験が大事になる。 ・総事業費から考えると少ない予算でよくやっている。少ないがために観客数も伸び悩んでいると感じる。集客とそれに見合う予算も必要だと感じた。 ・文学館の意義は何を顕彰して、どう見せるか。地元の作家を県民に知ってもらうことは非常に意義があることだと思う。	
・企画展のタイトルについて		・寺田寅彦展は「ふしぎいろいろ展」などキャッチーなタイトルをつけているように「上林暁展」という名前だけでは集客は難しい。県民でも知っている方は多くない。「生誕110周年」だけではなく、「私小説への誘い」など、県民向けに対して敷居が高くないようなキャッチーなタイトルを考えることは大事かと思う。	
・SNSの活用		・我々の世代はFACEBOOKだが、高校生などは、ツイッター（X）、Ti k Tok、Instagramが中心である。若い人たちはFACEBOOKなどは見ていない。様々なメディアがあるので、SNSもターゲットを絞って利用するもの一つ。 ・SNSの活用は大事、是非挑戦してほしい。	

	・ SNS を利用して、上林に限らず高知県の作家を広く知ってもらうように注力してほしい。 ・ 講座はリモートとリアル併用でやることは考えているのか。リモートで行うと参加者が非常に増えており、コロナ禍によってそういった効果もでている。また、折角、朗読をしたのであれば、HP からリアルタイムで作品に触れることができる、後でアーカイブでも見れるなど、作品を読んだことがない人にも行き渡るような工夫を。メディアはテレビ以外にもあることから、いろいろなものを利用して、県民に意義を浸透させてほしい。
・ アンケートについて	・ アンケートは項目が多いと記述する気になれない。できるだけ簡素に。シールを貼ってもらうだけの簡易なものでも良い。アンケートの数がないと信憑性がない。統計学的には 2,000 のサンプルが必要。
・ 吊り看板について	・ 商店街アーケード内の吊り看板は、材質などこういったものなのか教えてほしい。(商店街からの評判が良かった。)